

平成30年度 企画調整理事付 重点目標

	重点事項	成果目標（注）
1	<p>もうひとつの京都プロジェクトのセカンドステージの重点的な取組みを進め、さらに魅力ある地域ブランドに深度化させ、観光消費額等の拡大等地域の振興につなげます。</p>	<p>○もうひとつの京都構想の取組みを将来に向けて定着させ、より深度化するため「もうひとつの京都プロジェクトチーム」を設置し、分野横断・部局横断で取り組みます。海の京都DMO・森の京都DMO・お茶の京都DMO（以下「3DMO」という。）とも連携し、もうひとつの京都事業による地域振興を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3DMOの安定的な財源・人的な支援スキームを検討・構築し、3DMOの創意工夫ある取組みをサポート ・ 「もうひとつの京都ステップアップ推進事業」等による「海・森・お茶の京都構想」のフォローアップと充実展開 ・ 小型電気自動車等の新しいモビリティの導入（実証実験）など二次交通の確保 ・ 各地域の農産品等のブランド化 ・ 農林水産業等の地場産業等との連携による新たな消費機会の創出 ・ 他府県のDMO等との連携や、もう一つの京都を横断するテーマ（「ガストロノミーリズム」等）による、広域周遊型モデル・プラン等の造成への支援 ・ 「海・森・お茶の京都博」のレガシーを引き継ぎ、「海の京都クルージングフェスタ」、「森の京都ハーベスト・ガラ」、「お茶の京都 宇治茶博 2018」の効果的な開催により、一層の賑わいの創出の定着化 ・ 森の京都DMO、お茶の京都DMOの日本版DMO法人としての登録認定や「農泊 食文化海外発信地域（SAVOR JAPAN）」認定のサポート

（注） 目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標が適当な場合は、数値目標を記載する。

平成30年度 企画調整理事付 重点目標

重点事項	成果目標（注）
	<p>【海の京都プロジェクトの推進（海の京都DMOの取組み支援等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海の京都構想のフォローアップと充実展開をします。 ○インバウンド対策の重点的な取組みや、世界水準化の取組みを支援します。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域と一体となった「インバウンド計画」の策定、プロモーション展開 ・宿泊施設等のインバウンド受け入れ強化等の環境整備 ・「農泊 食文化海外発信地域」認定を活用した農山漁村部へのインバウンド誘客の推進 ○農商工（ちりめん、水産漁業等）・医療・スポーツ分野など地域産業と連携した新たなツーリズムの開発を図ります。 ○国立公園、国定公園、ジオパーク等自然を活かしたプログラムの企画・開発を進めます ◎観光入込客数：1,100万人、観光消費額：26,600百万円、外国人宿泊者数：7.1万人 <p>【森の京都プロジェクトの推進（森の京都DMOの取組み支援等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○都を支えた里山の自然・文化・生活や食材等の森の京都の恵みを活かし、京阪神との近接性、自然体験指向の欧米インバウンドもターゲットにしつつ、長期滞在・体験型プログラムの開発を支援し、交流の拡大をめざします。 ○特に、オリパラ・ワールドマスターズを格好の契機として、自然・スポーツ・家族・滞在を重点としたDMOの取組みを支援します。 <ul style="list-style-type: none"> ・京都丹波高原国定公園等の自然を活かしたエコツーリズム等の企画・造成 ・農泊等里山の生活文化を活かした生活体験等の長期滞在で家族の絆を深めるプランの（滞在型・家族対応型・教育体験型）の企画・造成、インバウンド・マーケットへのプロモーション ・ジビエ等の森の京都ならではの豊かな地域食材を活かしたプログラムの企画・造成化 ○森の京都地域をテーマにした日本遺産の認定 ◎観光入込客数：969万人、観光消費額：17,400百万円、外国人宿泊者数：2万人

（注）目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標が適当な場合は、数値目標を記載する。

平成30年度 企画調整理事付 重点目標

	重点事項	成果目標（注）
		<p>【お茶の京都プロジェクトの推進（お茶の京都DMOの取組み支援等）】</p> <p>○宇治茶の歴史・文化・産業を活かし、高付加価値な地域の魅力のプロデュースに取り組み、国内外からの交流人口の拡大、宇治茶産業の振興等につなげます。新たな地域資源の掘り起こしを支援し、それらをネットワークする二次交通の確保等を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇治茶のプレミアムブランド化事業、農産品等のブランド化の推進によるお茶の京都エリアのブランド化と、それらの活用によるインバウンドの誘客 ・山城12市町村毎に新たな着地型・体験型旅行商品を造成・開発 ・お茶の京都エリアの周遊性の強化 ・大規模集客施設、道路・鉄道網整備を活かした地域づくりの推進 <p>◎観光入込客数：1,267万人、観光消費額：22,000百万円、外国人宿泊者数：3.7万人</p>

（注）目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標が適当な場合は、数値目標を記載する。